

入院診療計画書 (PLF・PLIF手術を受けられる方へ)

(1) 入院から手術後2日目まで

入院日：平成 年 月 日 お名前

様

病名

項目	入院までに	入院当日～手術前	手術前日	(術前) 手術当日 (術後)	手術後1日目	手術後2日目
		月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
達成目標		<ul style="list-style-type: none"> 手術の必要性が理解でき、手術に同意している 手術前の準備が整っている 不安を表出することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 手術の必要性が理解でき、手術に同意している 手術前の準備が整っている 不安を表出することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 手術前の準備が整っている 不安を表出することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 循環動態が安定し、バイタルサインが安定している 術後神経障害を起こさない 深部静脈血栓を起こさない 疼痛がコントロールできる 術後髄液漏を起こさない 食事摂取ができる 良肢位が保てる 	<ul style="list-style-type: none"> 術後神経障害、循環障害を起こさない 深部静脈血栓を起こさない 疼痛がコントロールできる 術後髄液漏を起こさない リハビリに意欲がある 創感染を起こさない 歩行器又は独歩で歩行できる
処置	麻酔科を受診します 麻酔医が麻酔について説明します		除毛をします	手術開始は 時です 浣腸をします リストバンドをつけます コンプリネットプロを履きます	心電図・酸素をつけます 血・尿の管が入ります	心電図・酸素をはずします 創部の消毒をします 以後月水金で消毒します チューブからの血液の量が少なければ血の管を抜きます
与薬・点滴			下剤と安定剤を寝る前に内服します 抗生剤のテストをします	指示のある場合、朝薬を内服します	術後の点滴と抗生剤の点滴をします	点滴が終わったら、針を抜きます 朝夕、抗生剤の点滴をします
検査	採血・採尿・x-p 心電図・肺機能				手術後採血があります	朝、採血をします
食事			21時から食べられません 24時までは水分摂取は可能です	飲食できません 		お腹が動いていたら水、食事を開始します
活動 リハビリ テーション		リハビリテーション科の受診・説明があります			30度までベッドを起こせ、看護師の介助で横向きができます フロートロンを装着します	血の管が抜ければ理学療法士から起き上がりや日常生活についての説明があります コルセットを装着し、臥位から座位・立位への練習をします フロートロンをはずします
清潔			入浴できます	手術前に入浴は可能です	朝・夕洗面を介助します	体を拭きます 朝・夕洗面を介助します
排泄					ベッド上での排泄になります 尿の管が入ります	起き上がれるようになれば尿の管をぬきます
説明・指導	入院準備について説明します	医師が手術の説明をします 看護師が手術の準備の説明をします	手術承諾書と輸血承諾書の確認をします 必要物品をそろえます	家族の方は、手術時間までに病棟にお越し下さい	主治医から家族の方へ手術後の説明があります	看護師・理学療法士が、自分で体の向きを変える方法を説明します 起き上がれるようになればコルセットの装着方法・生活について説明をします

平成 年 月 日 主治医 ()

受け持ち看護師 ()

注1 病名等は、現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくにしたがって変わり得るものである。

注2 入院期間については現時点で予想されるものである。

項目	手術後3日目	手術後4日目	手術後5日目	手術後1週間目	手術後2週間目	手術後3週間目	退院日
	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 術後神経障害、循環障害を起こさない 深部静脈血栓を起こさない 疼痛がコントロールできる 術後髄液漏を起こさない 日常生活が自立または充足できる 歩行器又は独歩で歩行ができる 良肢位が保てる 創感染を起こさない 	<ul style="list-style-type: none"> 術後神経障害、循環障害を起こさない 深部静脈血栓を起こさない 疼痛がコントロールできる 術後髄液漏を起こさない 日常生活が自立または充足できる 歩行器又は独歩で歩行ができる 良肢位が保てる 創感染を起こさない 	<ul style="list-style-type: none"> 術後神経障害、循環障害を起こさない 深部静脈血栓を起こさない 疼痛がコントロールできる 術後髄液漏を起こさない 日常生活が自立または充足できる 歩行器又は独歩で歩行ができる 良肢位が保てる 創感染を起こさない 	<ul style="list-style-type: none"> 術後神経障害、循環障害を起こさない 深部静脈血栓を起こさない 疼痛がコントロールできる 術後創感染をおこさない 日常生活が自立または充足できる 歩行器又は独歩で歩行ができる 良肢位が保てる 	<ul style="list-style-type: none"> 術前の症状が改善され日常生活に不自由がない 神経障害・循環障害を起こさない 術後創感染をおこさない 歩行器又は独歩で歩行ができる 良肢位が保てる 退院後の生活が理解できる 38度以上の発熱がない 	<ul style="list-style-type: none"> 術前の症状が改善され日常生活に不自由がない 神経障害・循環障害を起こさない 術後創感染をおこさない 歩行器又は独歩で歩行ができる 38度以上の発熱がない 良肢位が保てる 	<ul style="list-style-type: none"> 神経障害、循環障害を起こさない 術前の症状が改善され日常生活に不自由がない 退院後の生活が理解できる
処置					創部の半抜糸・全抜糸をします 翌日創部の確認をします	翌日創部の確認をします	
与薬・点滴	朝・夕抗生剤の点滴があります			抗生剤の点滴は終了して内服薬が始まります(1週間)			
検査	起き上がった後、腰のレントゲンをとります			レントゲンを撮ります 採血をします		レントゲン・CTを撮ります 採血をします	
食事							
活動リハビリテーション	起立歩行訓練 筋力強化訓練 筋肉ストレッチ						
清潔	体を拭きます(状態により下半身シャワーをします) 洗髪をします				ガーゼが除去されれば全身シャワーができます		
排泄	尿の管をはずします トイレで排泄できます						
説明・指導	コルセットの装着方法・生活について看護師・理学療法士が説明します		医師がレントゲンの結果を説明します	医師が採血の結果を説明します	医師が退院の予定について説明します 看護師が退院に向けての説明をします 試験外泊します	医師が採血とレントゲン・CTの結果を説明します 退院について説明します	医師が次回受診日を確認します 看護師が退院に必要な書類等を説明します

平成 年 月 日 主治医 () 受け持ち看護師 ()

注1 病名等は、現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくにしたがって変わり得るものである。

注2 入院期間については現時点で予想されるものである。